



美の国あきたホーム＞組織別案内＞学術国際部＞健康環境センター＞保健衛生関係業務＞感染症情報
[2008年6月19日登録]

麻しん・風しんを予防しましょう！

麻しんは免疫のない人が感染した場合、重症化して入院が必要になったり、肺炎や脳炎などの合併症を引き起こす場合もあります。

風しんは麻しんより症状は軽く重症化することはまれですが、妊娠初期に感染すると高い確率で先天性風しん症候群（妊娠早期に風しんに感染した場合、生まれてきた子供に白内障、心血管系異常、難聴などが現れる）が起こります。

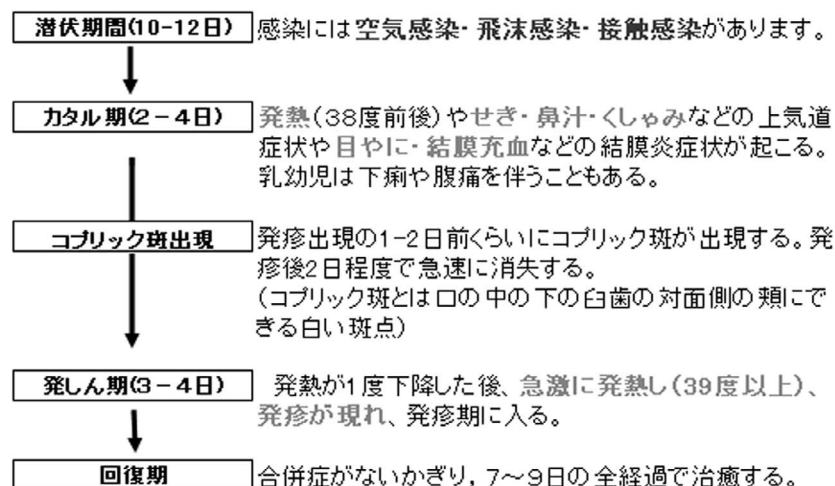
麻しん・風しんは予防接種により予防が可能です。以前の定期予防接種は1回接種でしたが、予防接種歴のある麻しん感染者が増えており、現在は2回の接種になっています。定期予防接種の対象者は対象期間に忘れずに予防接種を受けましょう。

■定期予防接種対象者

- 第1期：1歳児
- 第2期：5歳から7歳未満の小学校就学前1年間
- 第3期：中学校1年生相当年齢（2008年4月1日からの5年間）
- 第4期：高校3年生相当年齢（2008年4月1日から5年間）

■麻しんの症状と合併症

▲症状



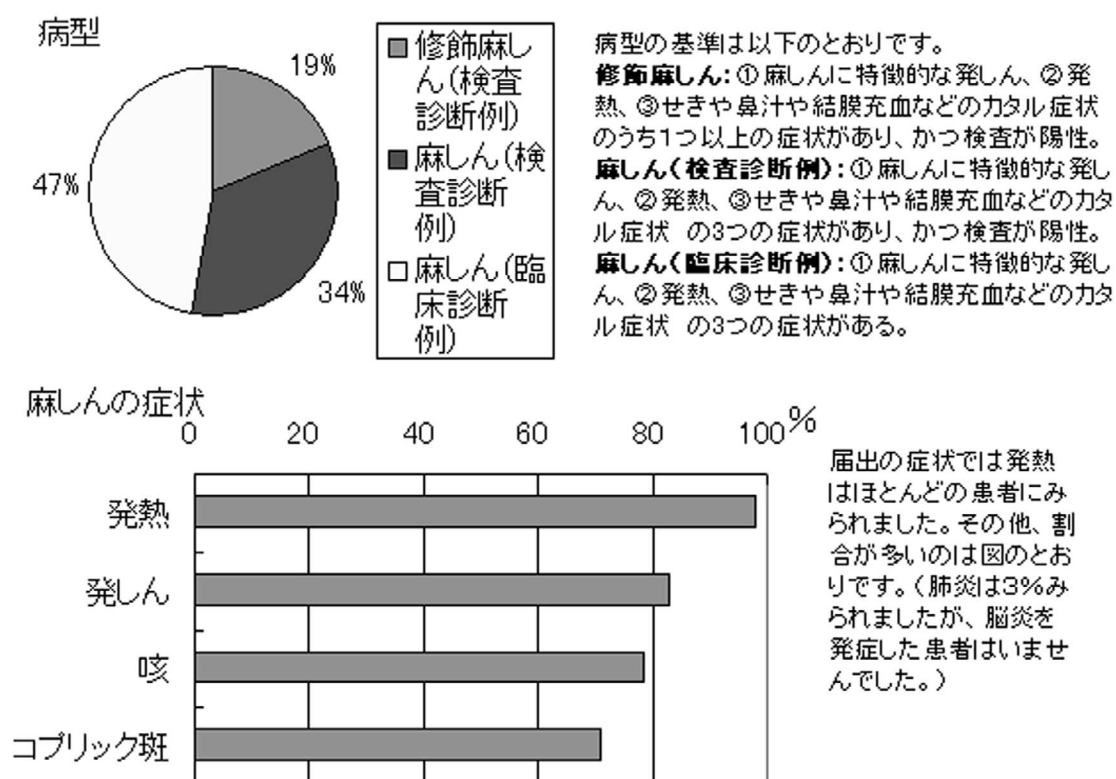
ウイルス排出期はカタル期から発しん出現後5-6日頃でこの間は感染源となる。

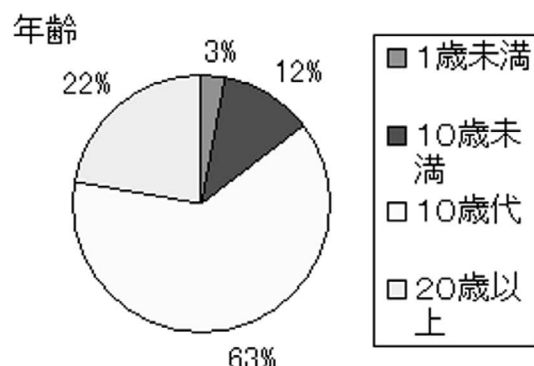
▲合併症

合併症	特徴
中耳炎	最も多い合併症で細菌の二次感染によるものがほとんど
クループ症候群	麻疹ウイルスによる炎症または細菌の二次感染による咽頭炎および気管支炎
肺炎	初期に見られるウイルス性の肺炎および発しん期をすぎても解熱しない場合などに見られる細菌の重感染による肺炎がある。その他に死亡例が多い、巨細胞性肺炎と呼ばれる成人の一部や細胞免疫不全状態の患者に見られる肺炎がある。
脳炎	1000人に1人程度の割合で起こる。発しん期の2－6日頃に発症することが多く、致死率は15%である。
亜急性硬化性全脳炎	感染した人の10万人に1人程度におこる。感染してから5－10年後に性格変化や知能低下にはじまり、徐々に知的障害、運動障害が進行し、発症から数年～数十年で死亡する。

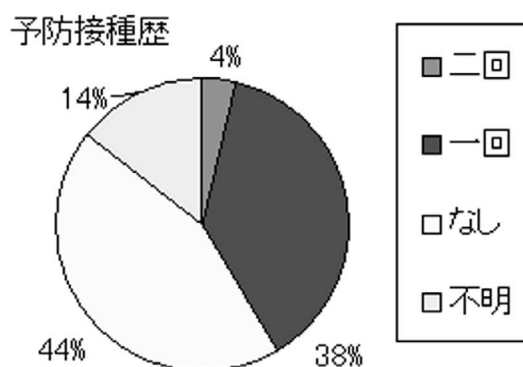
▲秋田県の疫学的特徴

秋田県では平成20年1月1日から3月31日までに152人の届け出がありました。届け出があったうちの病型、症状、年齢、予防接種歴の割合は以下のとおりです。





年代別では10歳代の患者が多く、ついで20歳以上でした。10歳代のうち中学・高校生に相当する年齢がほとんどでした。



患者の予防接種歴は「なし」が最も多い割合でしたが、一回接種歴は38%でした。二回接種歴があった患者のうちほとんどは二回目の接種日と発病日が近かったことから、予防接種による予防効果が現れる前に感染したものと思われます。

■風しんの症状と合併症

発しん、発熱、リンパ腺腫脹が主な症状です。合併症は少なく重篤化することはまれです。しかし、妊娠初期に感染すると高い確率で先天性風しん症候群が起きます。

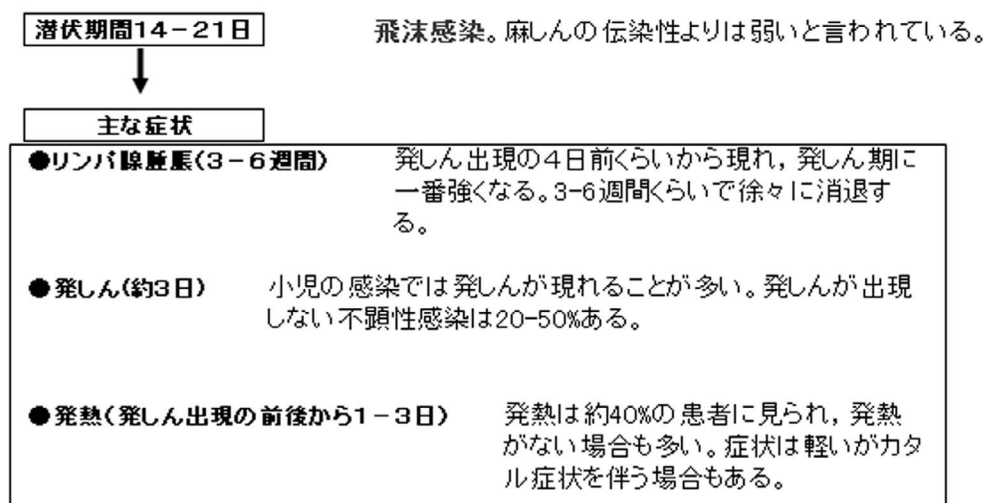
▲先天性風しん症候群について

妊娠前の女性は注意をしましょう。

妊娠早期に風しんに感染した場合（風しんの症状がない場合でも）、生まれてきた子供に、白内障、心血管系異常、難聴などが現れます。妊娠2か月以内の場合、3つの症状のうち2つ以上を、妊娠3～5か月では難聴のみが現れることが多いと報告されています。妊娠早期であればあるほど先天性風しん症候群の危険性は大きくなります。

過去に1回予防接種をしたことがある人でも、成人になって保有抗体価が低下してしまい感染してしまうことがあります。妊娠前の女性では積極的に風しんの抗体価をチェックしましょう。

▲風しんの症状



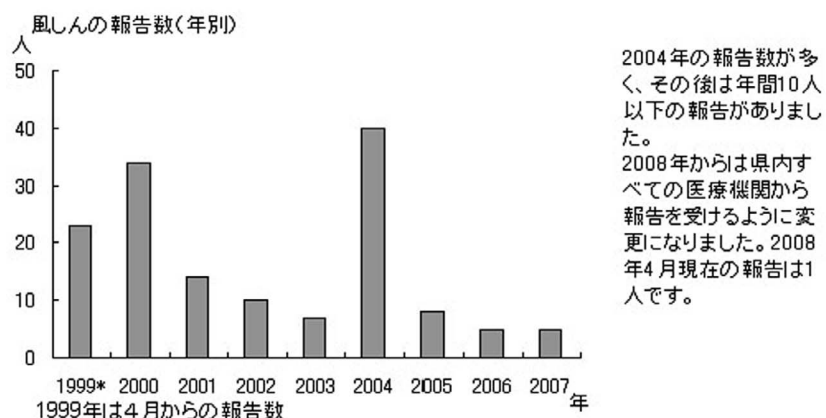
ウイルス排出期は発しん出現の1週間前から発しん出現後2週間位でこの間は感染源となる。

▲合併症

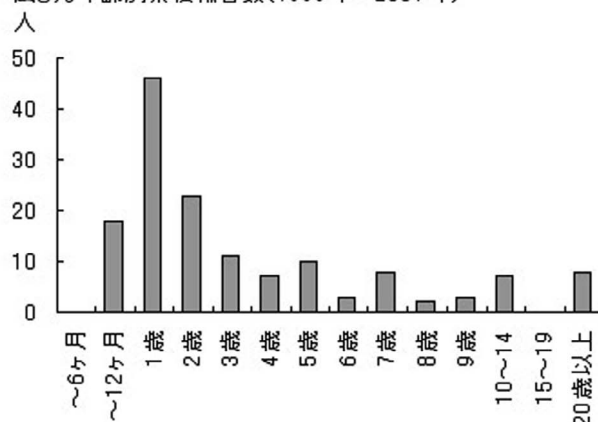
合併症	特 徴
脳炎	4000例-6000例に1例の頻度。発しん出現後2-6日に発症する。まれに、麻しんの合併症である亜急性硬化性全脳炎と同様の進行性風しん脳炎が起こる。
血小板減少性紫斑病	3000-5000例に1例の頻度で起こる。小児の特に女児が多い。発しん出現後2-12日で発症。
関節炎	最も多い合併症。成人女性に多い。発しん出現後5日以内に発症する。

▲秋田県の疫学的特徴

1999年4月から2007年の報告数、年齢別累積報告数は以下のようになっています。秋田県内35カ所の小児科からの報告数です。



風しん年齢別累積報告数(1999年～2007年)



1歳の報告が最も多くなっています。小児科からの報告にもかかわらず、20歳以上の報告が見られています。

■リンク

予防接種スケジュール表やガイドライン等についてはこちらをご覧ください。

- ・ 国立感染症研究所感染症情報センター
麻疹（はしか）
風しんおよび先天性風しん症候群（CRS）

関連情報

- ・ はしか（麻疹）に注意！
- ・ 麻疹（はしか）に注意！！
- ・ 麻疹について

学術国際部 健康環境センター

TEL:018-832-5005 FAX:018-832-5938 E-mail:b10266@pref.akita.lg.jp

[▲ページのトップへ](#)

秋田県庁 〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL:018-860-1111

[ガイドライン](#) | [個人情報の取り扱い](#) | [著作権・免責事項](#)

AKITA Prefecture All Rights Reserved. 各ページの記載記事、写真の無断転載を禁じます。



◆麻疹ウイルスの局地的流行と拡大防止に向けた取り組みー 秋田県

昨(2007)年来、麻疹は関東から全国に流行が拡大し、学校閉鎖が相次いだことで注目された。秋田県では2007年第22週(5/28～6/3)～2008年第11週(3/10～3/16)にかけて麻疹の届出が182件あったが、そのうち132件(73%)までが県北部の1地域であった。2007年第25週(6/18～6/24)に最初の患者が届け出られてからしばらくは単発の発生に留まっていたが、2007年第51週(12/17～12/23)から流行が急拡大し、地元自治体は非常事態宣言を出すに至った。地元自治体と県教育委員会の判断により、2008年1月23日(第4週)からワクチン未接種者の全小中学校(当該市内)と全高校(秋田県北部)への出席停止措置を導入したところ、流行は急速に収まり、3月17日(第12週)に麻疹終息宣言を出すことができ、隣接地域への波及も最小限に食い止められた。

麻疹の流行期間中に当該地域の病原体定点より回収した咽頭ぬぐい液42検体について、RT-PCR法を行ったところ、29検体から麻疹ウイルスを検出した。検出したウイルスのNP遺伝子3'末端側の385bp(型別領域)を含むようにデザインしたプライマー(MVSS-F: 5' AATGCATACTACTGAGGACA3'、およびMVSS-R: 5' CACCTAGTCTAGAAGATCAC3')を用いて増幅したDNA断片の一本鎖高次構造多型(SSCP)解析を行ったところ、すべて一致し、同一の塩基配列であるものと考えられた。次にその中から代表株を1つ抜き出して当該領域の塩基配列を決定し系統解析をしたところ、MV/Gunma.JPN/19.07/M01[D5](2007年5月7日検体採取)と100%の相同性が確認され、D5型と判定された(Accession No.: AB426545)。他の株もSSCPパターンが同一であることから、一連の流行はD5型によるものと考えられた。なお、当該地域以外から検出された3株の麻疹ウイルスについても同様の解析を行ったが、上記のものと同一の塩基配列をもったD5型であった。

現在のところ、麻疹ウイルスの型別には塩基配列を決定した上での系統解析しか方法がないが、本事例のように多検体を処理する場合は、SSCP解析を併用することでその作業を大幅に省力化できると考えられた。

これまで麻疹の流行への対策として学校閉鎖がもたら行われてきたが、地域社会へ及ぼす負担が大きいことは否めない。今回の事例ではワクチン未接種者だけを出席停止とすることで流行を終息へ導くことができたため、今後の対策のための1つのモデルとなることが期待できる。

秋田県健康環境センター

斎藤博之 佐藤寛子 柴田ひろ 山脇徳美 佐藤智子 高階光榮
大館市立総合病院・小児科 高橋義博

(IASR 2008年4月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



◆秋田県内市町村における第2期麻疹風しんワクチン接種率向上にむけた取り組みについて

1. はじめに

2007(平成19)年の秋田県の麻疹の流行は、全国同様、5月から拡大傾向にあり、5月28日から全数把握として発生状況の正確な把握に努めるとともに、市町村における緊急予防接種等の対策を図った。その結果、12月から県北部でアウトブレイクがあったものの、2008(平成20)年2月末には終息することができた(IASR 29:102-103,2008)。

このような麻疹発生状況がみられた本県の平成19年度第2期麻疹風しんワクチン接種率は95.8%となり、目標の95%を達成することができた。2006(平成18)年度が90.4%であったので、5.4ポイントの伸びであったが(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/pdf02/080331b.pdf>)、今般、県内各市町村の取り組みについてまとめたので報告する。

2. 各市町村の取り組み状況について

平成19年度各市町村における第2期麻疹風しんワクチン接種率向上にむけた主な取り組みは表のとおりであるが、個別通知による接種勧奨、広報やホームページによる周知、未接種者の把握とその後の個別のハガキや電話による接種勧奨等である。

3. おわりに

平成19年9月30日時点(中間集計)での接種率は42.2%と低かったが、最終的に95%以上を達成できた。この要因としては、麻疹流行を踏まえた県・市町村の積極的な啓発により、接種対象となっている未就学児の父兄の意識が高まったこと、また、各市町村が実施した、未接種者の把握と個別のハガキ(通知)や電話による丁寧な接種勧奨等のきめ細かな対応が、接種率の向上につながったものと考えられる。麻疹の流行が年末から徐々に始まり春季にピークとなることを考慮し、今後は、可能な限りより早期の接種を考慮することも必要と考える。

県として、今後も95%以上の接種率が維持できるよう、市町村と連携し、引き続き対策を図っていきたい。

秋田県健康福祉部健康推進課 石井 淳

(IASR 2008年7月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)

表. 2007 (平成19) 年度秋田県内各市町村における第2期麻疹ワクチン接種率向上にむけた取り組み

市町村	2007 (平成19) 年度 接種対象者数 (人)	2007 (平成19) 年度 接種率 (%)	取り組み
1 秋田市	2,722	95.7	・広報2回、ホームページへの掲載 ・就学時健診時における接種勧奨用パンフレットの配布 ・幼稚園、保育所に対象者保護者接種勧奨用パンフレット配布依頼
2 能代市	503	96.6	・市広報等による勧奨 ・幼稚園、保育所の協力を得て、対象者父兄にパンフレット配布 ・年度末に未接種者への電話による接種勧奨
3 横手市	806	97.0	・年度初めに個別通知 ・保育所の協力によりチラシを配布 ・未接種者へ電話や通知で再度接種勧奨
4 大館市	638	96.3	・7月時点の未接種者に対し、ハガキによる個別の接種勧奨 ・10月の就学時健診の時点で、未接種者に対する個別の接種勧奨 ・2008 (平成20) 年1月大館市の流行時、幼稚園保育所等に未接種者の把握および接種勧奨
5 男鹿市	198	95.9	・12月末、2008 (平成20) 年2月末時点での未接種者へハガキで接種勧奨 ・幼稚園、保育所の協力を得て、接種対象者にお知らせ配布 ・広報掲載
6 湯沢市	429	94.1	・未接種者に対するハガキでの受診勧奨
7 鹿角市	282	92.1	・広報、ホームページへの掲載 ・就学時健診で、パンフレットにより接種勧奨
8 由利本荘市	655	95.7	・個別通知 ・幼稚園、保育所への接種勧奨依頼 ・未接種者への電話による接種勧奨 ・地域医師会に受診時における接種勧奨を依頼
9 湯上市	313	91.6	・接種勧奨通知 ・未接種者への個別通知 ・幼稚園、保育所の協力により、未接種者への受診勧奨
10 大仙市	698	95.8	・就学時健診時、チラシ配布 ・1～3月未接種者へ接種勧奨
11 北秋田市	244	99.5	・個人通知を幼稚園、保育所を通じて配布 ・10月、就学時健診時、接種状況を把握し、未接種者に接種勧奨
12 仙北市	230	99.1	・就学時健診で未接種者を把握し、未接種者に通知および電話による接種勧奨 ・広報紙等による周知
13 にかほ市	261	98.8	・年度当初に個別通知 ・未接種者に対し、再度接種勧奨通知
14 小坂町	52	94.2	・年度始めに対象者に通知 ・2008 (平成20) 年1月に未接種者へ通知および電話による接種勧奨
15 小阿仁村	9	100.0	・個別通知 ・保育所と連携し、接種の確認
16 藤里町	19	100.0	・個別通知 ・就学時健診の際、口答で接種勧奨 ・2008 (平成20) 年3月、未接種者に対し、電話で再度接種勧奨
17 三種町	130	94.6	・2008 (平成20) 年1月、未接種者に電話で連絡
18 八峰町	55	98.1	・未接種者、未罹患者の把握 ・定期接種対象期間の中間に再度接種勧奨 ・お知らせ版・広報による早期接種の勧奨
19 五城目町	64	92.1	・個別通知 ・就学時健診時における未接種者の把握と接種勧奨 ・接種期間の中間時にワクチン接種の有無と接種勧奨 ・広報掲載
20 八郎潟町	60	95.0	・未接種者に対し、年度中に接種勧奨通知
21 井川町	42	97.6	・未接種者への通知 ・入学時説明会時接種勧奨
22 大湯村	36	100.0	・2008 (平成20) 年1月、ハガキで接種勧奨 ・2008 (平成20) 年3月、未接種者に対し、電話で再度接種勧奨 ・広報掲載
23 美郷町	169	99.4	・幼稚園、保育所に対象者保護者接種勧奨依頼 ・未接種者に対し、電話または通知で接種勧奨
24 羽後町	118	94.9	・2008 (平成20) 年1月、未接種者に個別通知 ・広報掲載
25 東成瀬村	23	100.0	・個別通知



発生報告

<全数把握対象疾患>

五類感染症の麻しんが大館保健所管内(3人)から報告されました。

種類	疾患名	1週-52週	1週
		全国	秋田県
一類	エボラ出血熱		
	クリミア・コンゴ出血熱		
	マールブルグ病		
	ラッサ熱		
	痘そう		
	ペスト		
	南米出血熱		
二類	急性灰白髄炎		
	ジフテリア		
	重症急性呼吸器症候群		
	結核	20151	134
三類	腸管出血性大腸菌感染症	4586	63
	コレラ	12	
	細菌性赤痢	450	4
	腸チフス	47	1
	パラチフス	22	
四類	E型肝炎	54	
	ウエストナイル熱		
	A型肝炎	154	
	エキノコックス症	16	
	黄熱		
	オウム病	30	
	回帰熱		
	Q熱	7	
	狂犬病		
	鳥インフルエンザ		
	コクシジオイデス症	3	
	サル痘		
	腎症候性出血熱		
	炭疽		
	つつが虫病	370	10
	デング熱	89	
	ニバウイルス感染症		

発生報告

<全数把握対象疾患>

五類感染症の麻しんが大館保健所管内(3人)から報告されました。

種類	疾患名	1週-52週	1週
		全国	秋田県
四類	日本紅斑熱	98	
	日本脳炎	10	
	ハンタウイルス肺症候群		
	B型肝炎		
	ブルセラ症		
	発しんチフス		
	ボツリヌス症	3	
	マラリア	52	
	野兔症		
	ライム病	12	
	リッサウイルス感染症		
	レジオネラ症	655	5
	レプトスピラ症	34	
	オムスク出血熱		
	キヤヌル森林病		
	西部ウマ脳炎		
	ダニ媒介脳炎		
	東部ウマ脳炎		
	鼻疽		
	ペネズエラウマ脳炎		
	ヘンドラウイルス感染症		
	リフトバレー熱		
	類鼻疽		
	ロッキーマウンテン紅斑熱		
五類	アメーバ赤痢	781	1
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	231	1
	急性脳炎	216	
	クリプトスポリジウム症	6	
	クロイツフェルトヤコフ病	148	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	96	1
	後天性免疫不全症候群	1449	6
	ジアルジア症	56	
	髄膜炎菌性髄膜炎	17	
	先天性風しん症候群		
	梅毒	714	1
	破傷風	88	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	80	
	風しん*	-	-
	麻しん*	-	3

*平成20年1月1日からの届出

今週のピックアップ

<大館保健所管内で麻しんの患者が発生しています。>

大館保健所管内で麻しんの患者が発生しています。
12月下旬より散発的に発生がありましたが、今週 診断日が1月1日からの件数に3件の報告があり1月9日現在までにさらに4件の患者が報告されています。(平成20年1月1日 第1週)より、麻しんはすべての医療機関から報告を受けています。)

麻しんについて

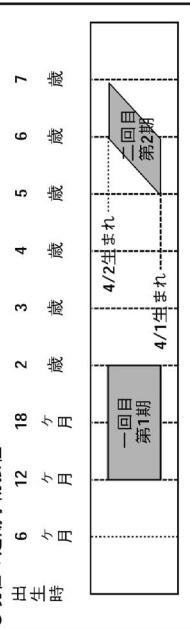
麻しんは感染力が非常に強く十分な免疫がない人では発症者と同じ部屋にいただけで感染する場合があります。さらに、感染すると症状が重く、入院が必要になったり、まれに急性脳炎を発症し、精神発達遅延等の重篤な後遺症が残る、もしくは死亡する場合もあります。また、亜急性硬化性全脳炎を発症することもあります。発症した場合は、多くは知能障害や運動障害が進行した後、数年内に死亡する、予後不良の脳炎です。この亜急性硬化性全脳炎は1歳未満や、免疫力が低下している人が麻しんに感染した場合に比較的多いのが特徴です。麻しん感染後、数年後に発症し、好発年齢は学童期です。

予防について

予防としてはワクチン接種により、免疫をつけることです。平成19年の関東地方を中心とした麻疹関連ワクチン1回接種世代 15～30歳代)の流行があり、予防としては2回接種が必要です。特に現在患者が多く発生している大館地域にお住まいの、第1期接種対象年齢で、麻しんに未感染でまだワクチン接種をしていないお子様はできるだけ早く接種をしましょう。

予防接種スケジュール

●現在の定期予防接種





発生報告

＜全数把握対象疾患＞
二類感染症の結核が秋田市保健所管内(2人)から報告されました。
四類感染症のレジオネラ症が秋田市保健所管内(1人)から報告されました。
五類感染症の麻しんが大館保健所管内(1人)、北秋田保健所管内(1人)、能代保健所管内(1人)から報告されました。

類型	疾患名	1週-2週	3週
一類	エボラ出血熱		
	クリミア・コンゴ出血熱		
	マールブルグ病		
	ラッサ熱		
	痘そう		
	ペスト		
二類	南米出血熱		
	急性灰白髄炎		
	ジフテリア		
	重症急性呼吸器症候群		
	結核	459	1
	腸管出血性大腸菌感染症	26	1
三類	コレラ	1	
	細菌性赤痢	15	
	腸チフス	1	
四類	パラチフス	1	
	E型肝炎	1	
	ウエストナイル熱		
五類	A型肝炎	6	
	エキノコックス症		
	黄熱		
	オウム病		
	回帰熱		
	Q熱		
	狂犬病		
	鳥インフルエンザ		
	コクサツウイルス症		
	サル痘		
	腎症候性出血熱		
	炭疽		
	つつが虫病	20	
	デング熱	4	

(人)

今週のヒックス

＜インフルエンザについて＞

インフルエンザの患者発生が増加傾向にあり、能代保健所管内には警報、大館、由利本荘保健所管内には注意報が発令されています。さらに、今週は集団かぜによる学年閉鎖などがありました。詳細についてはインフルエンザ情報をご覧ください。

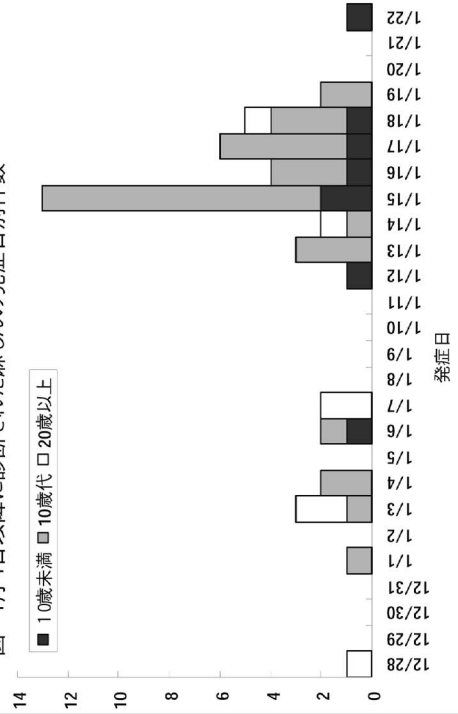
＜麻しんについて＞

●県内の方へ

- ・定期予防接種対象年齢 1歳児と小学校就学前1年間で対象期間中にまだ受けていない人は早急に接種しましょう。
- ・自己負担になりますが、生後6ヶ月からワクチンを受けることができますので、接種を希望する方は医療機関にご相談下さい。

麻しんは感染力が非常に強く、予防接種により免疫をつける以外予防方法はありません。感染すると症状が重く、入院が必要になります。まれに脳炎を発症し、重篤な後遺症が残る、もしくは死亡する場合があります。特に小中学校、高校などの集団生活の場では感染が広まりやすく、1月1日から1月23日現在までの届出においても10歳代の中学生、高校生相当の年齢の患者が多(報告されています 図)。

図 1月1日以降に診断された麻しんの発症日別件数



*平成20年1月1日からの届出

おわりに

佐藤 唯直
秋田県健康福祉部健康推進課長

平成20年1月、麻しん未罹患のワクチン未接種者への出席停止措置―大館市内の小中学校と秋田県北部の高校において、打ち出されたこの方針は、麻しん流行時における全国初の取り組みとして全国から注目されました。

この方針は、当時の関係者の麻しん拡大防止への必死さが生みだしたものです。出席停止措置がなされる前に、大館市立総合病院をはじめとする医療関係者の必死の治療や患者周囲の人への予防接種があり、大館保健所の積極的疫学調査懸命な指導があり、大館市の思い切った緊急麻しん予防接種事業の実施があり、当課からの連した報道発表がありました。

当時、医療も行政も教育も、次々と対策を繰出し、このような措置が行われるような対策推進の気運の高まりがありました。私は、この措置を導いた当時の関係者の連携を評価しています。

また、普段からの予防接種についても、秋田県の第2期麻しん風しんワクチン接種率は、平成18年度が90.4%（全国第2位）、平成19年度95.8%（全国第1位）と非常に高く、今回の流行制圧には、各市町村の日頃の確実な定期接種の実施に寄るところが大きかったと感じております。

平時の確実な取り組みと、流行時の積極的な対策が、平成20年3月17日大館市の「非常事態宣言の解除」という成果となって現れました。このとき私は、死亡者も重症者もなく、安堵したことを思い出します。



平成20年10月15日
麻しん対策研修会にて

ひとたび麻しんが流行すると、それを終息させるには膨大なエネルギーを必要としますが、このたび、記録集として、20年前の大流行も含めて関係者のエネルギッシュな麻しん対策の実例をまとめることができました。

流行初期に地元小児科医が懸命に行った対策の熱意が、保健所を通じて関係者の間に広がり、市町村行政や教育委員会の行った思い切った対策の意味が、地域住民に浸透していく様子を表すことができました。

記録集作成にあたり、御協力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今回の麻しん制圧事例から学んだ多くのことを今後に活かし、国の目指している2012年の麻しん排除へ向けて一層の対策に邁進することを誓って終わりの言葉とさせていただきます。

本記録集の執筆者一覧（順不同・敬称略）

高 橋 義 博	大館市立総合病院小児科 部長 （現 副診療局長）
戸 田 ミワ子	大館市保健センター （現 大館市市民部健康推進課）
小 畑 真理子	大館市保健センター （現 大館市市民部健康推進課）
石 井 隆	大館市教育委員会学校教育課
石 山 明	秋田県大館保健所 所長
澤 口 博	秋田県小児科医会 会長
小 松 和 男	秋田県小児保健会 会長
岸 本 かおる	秋田県教育庁保健体育課
佐 藤 智 子	秋田県健康環境センター 感染症情報センター
佐 藤 唯 直	秋田県健康福祉部健康推進課 課長
柳 原 清	秋田県健康福祉部健康推進課
滝 本 法 明	秋田県健康福祉部健康推進課

麻しん排除へ

—平成19年度秋田県麻しん流行制圧の記録—

平成21年2月

Toward the Measles Elimination

—The Report of Measles Outbreak Response and Control
in Akita Prefecture, 2007-2008—

February 2009

編集発行 秋田県（健康福祉部健康推進課）

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

電話 018-860-1424 FAX 018-860-3821

ISBN978-4-9904582-0-1

